

沖縄県伊平屋方言の名詞の格体系

平良尚人（人文社会科学研究院院生）・備瀬百合音（琉球大学法文学部学生）

1. 伊平屋村の概要

伊平屋村は、沖縄島本部半島の北方海上約 40 kmに位置し、伊平屋島・野甫島の二島からなる。南には無人島である具志川島をはさんで伊是名島がある。集落は東海岸に立地し、北から田名、前泊、我喜屋、島尻、野甫の五字が分布する。人口は 1,405 人、世帯数 575 世帯（平成 21 年時）。

田名、前泊、我喜屋、島尻の 4 つの集落をもつ伊平屋島は、沖縄県の有人島のなかでは最北に位置する。島は北東 - 南西方向にのびる細長い形で、長さ約 14 km、最大幅約 3 km、面積 20.66 km²。島の骨格をなす山地・丘陵地は島軸にそって北東 - 南西方向に並び、5 つほどの山塊にわかれている。このため、島を洋上から眺望すると、複数の島々が連なる列島のように見える。山塊を構成する主要地質は琉球石灰岩ではなく、中生代・古生代のチャートと中生代の砂岩頁岩互層である。山塊間には比較的広い沖積低地が分布し、稲作を支える地形的基盤をなしてきた。島の北部東海岸には俗に天の岩戸とも呼ばれるくまや洞窟がある。また、田名の北北東 1.5 kmにある念頭平松(推定樹齢 200～250 年のリュウキュウマツ)は国の天然記念物に指定されている。

野甫集落をもつ野甫島は、伊平屋島の南端・米崎の西方約 500mに位置し、面積 1.06 km²である。島の形は台形で、伊平屋島とは異なり、琉球石灰岩からなる低平な島である。1979 年(昭和 54 年)には、両島間に全長 680mの野甫大橋が架橋された。

本報告では 2016 年 9 月 3～6 日にかけて行った伊平屋島でのフィールドワークで得た用例から、伊平屋島我喜屋集落で話される我喜屋方言の名詞の格について報告をおこなう。

今回我喜屋方言について、

昭和 8 年生まれ A.H さん (85) [生 我喜屋→長期移住歴ナシ]

昭和 12 年生まれ Y.H さん (80) [生 南洋→7 歳 我喜屋→16 歳 本島(浦添)→20 歳 我喜屋]

昭和 28 年生まれ K.T さん (63) [生 我喜屋→16 歳 那覇→約 5 年 大阪→30 代 我喜屋]

昭和 29 年生まれ N.H さん (63) [生 我喜屋→16 歳 那覇→神奈川→30 代 我喜屋]

の四名の方に面接調査をおこない教えていただいた。

格の意味の分類は、鈴木重幸 1972『日本語文法・形態論』に従っておこない、現代日本語の格の意味とは異なるものがある場合は、名護市史編さん委員会 2006『名護市史本編・10 言語』の「第 5 節 山原方言の名詞のはたらき」を参考に分類している。

2. 我喜屋方言の格形式と意味

格について鈴木 1972 では、「名詞が文や連語のなかで他の単語に対してとる事柄上の関係（素材＝関係的な意味）のちがいをあらわす文法的なカテゴリーを格という¹」と述べている。

我喜屋方言の格形式には次のものが確認できた。ハダカ格、ga 格、nu 格、ke 格、ni 格、ne:格、he:格、kara 格、madi 格、tu 格、jakane 格、について以下に個々の形式ごとに意味を述べていく。

¹ 鈴木重幸 1972:p.205

表1 我喜屋方言の形式と意味

形式	意味	用例
ハダカ格	動作や状態の持ち主	?ja: jakuba:=ke ike:. おまえ 役場へ 行け。
	対象	irana=ne: kusa: hare:. 鎌で 草 刈れ。
	属性	wan kutsu ma:=ni ajo. おれの 靴は どこに ある。
	側面	taro:=ja mi: su:=tu ju: ni:joŋ. 太郎は 目が お父さんと よく 似ている。
	量	kiŋnu: mi:bai mi:ŋi kwa:hoŋdo:. 昨日 めばるを 三つ(匹) 釣っているよ。
	動作や状態がなりたつ時	amma:=ja aŋa: to:kjo:=ke: ndze: musuko=ke: iŋantero:ja:. 母さんは 明日 東京へ 行って 息子に 会うんだよね。
	うつりうごく場所	miŋi=nu mannaka atŋe: naranro:ja:. 道の まんなかを 歩いて いけないよ。
	呼びかけ	dziro: unu ni: basutei=madi muŋe ndze: turaçi:. 次郎、この 荷物 バス停まで 持って 行って くれ。
ga格	動作や状態の持ち主	?tamme:=ga wara=he: dzo:ri anaŋ . おじいさんが 藁で 草履を 編んだ。
	対象	taro:=ja sa:ta:andagi:=ga dzo:gu:jatando:. 太郎は サーターアンダギーが 好きだったよ。
	属性	kadzuko=ga ja:=nu indza=ne: u:ru=ga ŋusarijo:ndo:. かずこの 家の 上に 布団が 干されているよ。
	側面	hanako=ja ŋira=ga amma:ke ju: ni:joŋ. 花子は 顔が 母さんに よく 似ている。
	目的	amma:=ja iŋiba=ke koimuŋi=ga idzaŋ. 母さんは 市場へ 買物に 出かけた。
nu格	属性	teruŋima=ja i:nuka:=nu midzi=kara tsukurariŋdo:. 照島(酒)は イースカー(河川名)の 水から 作られる。
	動作や状態の持ち主	ami=nu ŋuinu ba:=ja saburo:=ja ja:=ne maŋga=bike: juno:ŋ. 雨が 降る 時は 三郎は 家で 漫画ばかり 読んでいる。
ke格	ゆくさき	amma:=ja iŋiba=ke koi=ga idzaŋ. 母さんは 市場へ 買物に 行った。
	あい手	taro:=ja uttu=ke kwa:ŋi wakije: turuŋaŋ. 太郎は 弟に お菓子を 分けて あげた。
	くつつくところ	matsuri=nu harigami ko:minkan=nu kabi=ke hajo:taŋ. 祭の 貼り紙が 公民館の 壁に 貼ってあった。
	対象	jurumiŋi=ja atŋi:ne habu=ke ŋu:ihaŋko: narando. 夜道は 歩くなら ハブに 注意しなさいよ。

	原因	dʒiro:=ja <u>ami=ke</u> nrije: ja:=ke ke:ʃaŋ. 次郎は <u>雨に</u> 濡れて 家へ 帰ってきた。
ni 格	動作や状態がなりたつ時	haʃiɡwaʃi:=ni ke:ʃunteɔ:ja. <u>八月に</u> 帰ってくるようだ。
	動作や状態がなりたつ場所	jodʒi=madi <u>basutei=ni</u> maʃo:kido:ja. 四時まで <u>バス停で</u> 待っておけよ。
	ありか	wan kutsu <u>ma:=ni</u> ajo. おれの 靴 <u>どこに</u> ある。
ne: 格	ありか	anu <u>jama=ne:</u> inoʃiʃi=ga unro:ja. あの <u>山に</u> いのししが いるそうだ。
	道具	dʒiro:=ga <u>monosaʃi=ne</u> saburo: kuruʃaŋ. 次郎が <u>ものさしで</u> 三郎を 殴った。
	手段	maʃi=ke=ja <u>takuʃi=ne</u> indʒuʃiŋkan basu=ne indʒuʃiɡa maʃi arani. 町には <u>タクシーで</u> 行くより バスで 行くのが良いんじゃないか。
	材料	dʒiro:=ja <u>kabi=ne</u> koinobori tsukutaŋ. 次郎は <u>紙で</u> こいのぼり 作った。
	量	to:kaʃi=ja ja:guna <u>mu:ru=ne</u> ju:bei ʃundo:ja:. 米寿は 家族 <u>みんなで</u> お祝いを するんだよね。
	動作や状態がなりたつ場所	ami=nu ʃui=nu ʃi:=ja saburo:=ja <u>ja:=ne</u> maŋga=bike: juno:ŋ. 雨が 降る 日には 三郎は <u>家で</u> 漫画ばかり 読んでいる。
	原因	ma:ga=ga <u>hanaʃiʃi=ne:</u> nu:jo:ŋ. 孫が <u>風邪で</u> 寝ている。
動作や状態がなりたつ時	ho:neŋsai=nu <u>tufi=ne:</u> haŋʃi=madi=n mo:taŋ. 豊年祭の <u>時に</u> ばあさんまでも 踊った。	
he: 格	材料	dʒiro:=ja <u>kabi=he</u> koinobori tsukutaŋ. 次郎は <u>紙で</u> こいのぼりを 作った。
	量	unu te:buru=ja ŋbuhanu <u>ju:tte=he:</u> muʃe ikaja:. この テーブルは 重いから <u>四人で</u> もって いこう。
	動作や状態がなりたつ場所	unu uwagi=ja <u>jamatu=he:</u> nisenen=he: ko:tando:ja. この 上着は <u>東京で</u> 二千元で 買ったよね。
	原因	me:=nu ʃu: miʒagi=nu tamme:=ja <u>bjo:ki=he:</u> ma:ʃando:. 先週 宮城の おじいさんは <u>病気で</u> 死んだよ。
kara 格	とりはずすところ	ni:ke:=kara ʃuton mutʃe: ʃu:ja:. <u>二階から</u> 布団を 持って こい。
	あい手	dʒiro:=ja <u>tamme:=kara</u> jagamahante mugeraretaŋ. 次郎は <u>じいさんから</u> うるさいと 怒られた。
	材料	saki=ja <u>ʃumi=kara</u> tsukuŋdo:. 酒は <u>米から</u> 作るよ。
	出発点	taro:=ja iʃi <u>jamatu=kara</u> ke:ʃuntega. 太郎は いつ <u>東京から</u> 帰ってくるか。

	うつりうごく場所	<u>tin=kara</u> maʃʃira: tui=ga tuno:ndo:. 空を 真っ白な 鳥が 飛んでいる。
	動作や状態がはじまる時	tara:=ja <u>ɸudzu:=kara</u> to:kjo:=ne=ru unro:ja:. 太郎は 去年から 東京に いるよね。
	原因	tabaku=nu <u>çi:=kara</u> kadzi=ke: najo:nro:. 煙草の 火から 火事に なっているよ。
madi 格	到達点	ɖjiro: unu ni: <u>basutei=madi</u> muʃe ndze: turaçi:. 次郎 この 荷を <u>バス停まで</u> 持って 行って くれ。
	動作や状態がおわる時	ɖjikaŋ=ga aitu <u>godzi=madi</u> terebi na:ni. 時間が あるから <u>五時まで</u> テレビを 見ないか。
tu 格	仲間	ɖjiro:=ja uttu=nu <u>saburo:=tu</u> o:taŋ. 次郎は 弟の <u>三郎と</u> 喧嘩した。
	状態があらわれるために必要な対象	taro:=ja mi: <u>su:=tu</u> ju: ni:joŋ. 太郎は 目が <u>お父さんと</u> よく 似ている。
jakane 格	比較	<u>jasaiandaqi:=jakane</u> saʃimi=ga=ru ma:hassa:. <u>野菜天ぷらより</u> 刺身が 旨いよ。

2. 1 ハダカ格

名詞に格助辞がつかないハダカ格の形式がある。このハダカ格は名詞の基本的な格であり、格助辞がくつつかないことが形式上の特徴である。我喜屋方言のハダカ格の名詞は、主語や独立語や修飾語や状況語や補語としてはたらき、〈動作や状態の持ち主〉、〈対象〉、〈属性〉、〈側面〉、〈数量〉、〈動作や状態がなりたつ時〉、〈うつりうごく空間〉、〈よびかけ〉、をあらわす。

2. 1. 1 動作や状態の持ち主

ハダカ格の人代名詞や現象名詞が主語としてはたらき、〈動作や状態の持ち主〉をあらわす。

1. ?ja: jakuba:=ke ike: .
おまえ 役場へ 行け。
2. ai nama=ja ami ɸundo:.
あ、今 雨 降るよ。
3. to:kafʃi=ja ja:guna mu:ru=he ju:bei ɸundo:ja:.
米寿は 家族 みんなで お祝いを するよね。

2. 1. 2 対象

ハダカ格の物名詞や人名詞が補語としてはたらき、述語になる動詞の〈対象〉をあらわす。

4. irana=ne: kusa: hare:.
鎌で 草を 刈れ。
5. waŋ=ja kiŋnu: ʃimbun jumaŋtaŋ.
おれは 昨日 新聞を 読まなかった。
6. ɖjiro:=ga monosaʃi=ne saburo: kuruʃaŋ.
次郎が ものさしで 三郎を 殴った。
7. matsuri=nu harigami ko:minkan=nu kabi=ke hajo:taŋ.
祭の 張り紙が 公民館の 壁に 貼っていた。

〈能力の対象〉

8. ?ja:=ja unu ju:=nu na: wakaimi.
おまえは この 魚の 名前が 分かるか。

次の例も補語としてはたらくハダカ格の〈対象〉の例だが、上記のハダカ格の〈対象〉とは少し異なり、現代日本語のを格ではなく、に格に相当する例だと思われる。

9. aʃa: musuko iʃai=ga ndʒunro:ja.
明日 息子に 会いに 行くよね。
10. uttu:=ja ʃudʒu ʃu:gaku=nu ʃinʃin nataŋ.
妹は 去年 中学の 先生に なった。
11. hanako=ja kiŋnu:=kara jamme: kakaje: nu:jo:ŋ.
花子は 昨日から 病気に かかり 寝ている。

2.1.3 属性

ハダカ格の人代名詞や物名詞が連体修飾語としてはたらし、あとに続く名詞の〈属性〉をあらわす。

12. wan kutsu ma:=ni ajo.
おれの 靴 どこに ある。

2.1.4 側面

ハダカ格の名詞が主語にあらわされる人の部分などの〈側面〉をあらわす。

13. taro:=ja mi: su:=tu ju: ni:joŋ.
太郎は 目が お父さんと よく 似ている。

2.1.5 量

ハダカ格の数量名詞や量をあらわす疑問詞が連用修飾語としてはたらし、〈量〉をあらわす。

14. kiŋnu: mi:bai mi:ʃi kwa:hoŋdo:.
昨日 めばるを 三つ(匹) 釣っているよ。
15. nago=kara naʃa=madinu unʃin=ja iʃa: kakaigaja.
名護から 那覇までの 運賃は いくら かかるかね。

2.1.6 動作や状態がなりたつ時

ハダカ格の時間名詞が状況語としてはたらし、〈動作や状態がなりたつ時〉をあらわす。

16. wan=ja ʃu: iʃunahaŋ.
おれは 今日 忙しい。
17. amma:=ja aʃa: to:kjo:=ke: ndʒe: musuko=ke: iʃantero:ja:.
母さんは 明日 東京へ 行って 息子に 会うんだよね。
18. uttu:=ja ʃudʒu ʃu:gaku=nu ʃinʃin=ke nataŋ.
妹は 去年 中学の 先生に なった。

2.1.7 うつりうごく空間

ハダカ格の空間名詞が状況語としてはたらし、述語の移動動詞の動作がおこなわれる〈うつりうごく空間〉をあらわす。

19. miʃi=nu mannaka aʃe: naranro:ja:.
道の まんなかを 歩いて いけないよ。
20. aʃa:=nu namadʒibun wata: ware:=ja jama=nu naka aʃfo:saja:.
明日の 今頃 うちの 子は 山の 中を 歩いているね。

2.1.8 呼びかけ

ハダカ格の人名詞（固有名詞）が独立語としてはたらき、きき手への〈呼びかけ〉をあらわす。

21. dziro: unu ni: basutei=madi muŋe ndze: turaçi:.
 次郎、この 荷物 バス停まで 持って 行って くれ。
22. hariro: u:mi mi:=ga ikani: hamaro:.
 晴れたら 海を 見に 行こうか ハマロー（人名）。

・述語の要素

ハダカ格の名詞と huŋ（する）などの単語とがくみあわさって述語としてはたらくとき、ハダカ格の名詞は連語述語の要素となる。

23. to:kaf̄i=ja ja:guna mu:ru=ne ju:bei ɸundo:ja:.
 米寿は 家族 みんなで お祝い するんだよね。

2.2. ga 格

我喜屋方言の ga 格の名詞は、主語や修飾語や状況語としてはたらき、〈動作や状態の持ち主〉、〈対象〉、〈属性〉、〈側面〉、〈目的〉をあらわす。

2.2.1 動作や状態の持ち主

ga 格の名詞が主語としてはたらく場合は、〈動作や状態の持ち主〉をあらわす。主語になれる名詞は、人名詞や物名詞や現象名詞など様々である。

24. ?tamme:=ga wara=he: dzo:ri anaŋ.
おじいさんが 藁で 草履を 編んだ。
25. i: jakuba=ke wan=ga iŋfusa.
 うん、 役場へ おれが 行く。
26. ko:ŋo:ŋinŋin=ga basu=kara urie ŋaŋ.
校長先生が バスから 降りて きた。
27. dziŋaŋ=ga aitu godzi=madi terebi na:ni.
時間が あるから 5時まで テレビを 見ないか。
28. a: ami=ga ɸue ŋaŋ.
 あ、 雨が 降り きた。
29. wan=ja saki=ga airo:ja nu:=n ŋimuŋ.
 俺は 酒が あれば なにも いらぬ。

2.2.2 対象

ga 格の物名詞などが補語としてはたらき、述語になる動詞の〈対象〉をあらわす。
 （心が向かっていく対象）

30. taro:=ja sa:ta:andaqi:=ga dzo:gu: jatando:.
 太郎は サーターアンダギーが 好きだったよ。
31. wan=ja irabuŋa:=nu safimi=ga:=du kamiŋfahaŋ.
 俺は イラブチャーの 刺身が 食いたい。
 （能力の対象）
32. hanako=ja iŋkaf̄i=kara sanŋin=ga ɸiŋiɸuŋ.
 花子は 昔から 三線が 弾ける。
33. taro:=ja je:go=nu ŋimuŋi=ga jumiɸuŋ.
 太郎は 英語の 本が 読める。

2.2.3 属性

ga 格の人名詞や人代名詞が連体修飾語としてはたらき、あとに続く名詞の〈属性〉をあらわす。

34. kadzuko=ga ja:=nu indza=ne: u:ru=ga φusarijo:ndo:.
 かずこの 家の 上に 布団が 干されているよ。
35. unu kasa=ja wan=ga mun jasa.
 その 傘は おれの ものだよ。
36. ja:=ga bo:fi=ja di:ruga.
 お前の 帽子は どれだ。

2.2.4 側面

ga 格の名詞は動詞とくみあわさって連語述語をつくる。このばあい、ga 格の名詞は主語のあらわすものの部分やもちものなどの〈側面〉をあらわす。

37. hanako=ja fiira=ga amma:ke ju: ni:joŋ.
 花子は 顔が 母さんに よく 似ている。

2.2.5 目的

ga 格の動作性名詞が状況語としてはたらき、述語のあらわす移動動作の〈目的〉をあらわす。

38. amma:=ja ifiiba=ke koimuŋi=ga idzaŋ.
 母さんは 市場へ 買物に 出かけた。
39. taŋme:=ja fikama:=kara jama=ke kinoko: tui=ga ŋdzaŋ.
 じいさんは 早朝から 山へ きのこを 取りに 行った。
40. hariro: u:mi mi:=ga ikani: hamaro.
 晴れたら 海を 見に 行こうよ ハマロー (名前)。

2.3. nu 格

我喜屋方言の nu 格の名詞は、修飾語や主語としてはたらき、〈属性〉、〈動作や状態の持ち主〉をあらわす。

2.3.1 属性

nu 格の名詞が連体修飾語としてはたらき、あとに続く名詞の〈属性〉をあらわす。

41. wan=ja irabuŋa:=nu saŋimi=ga=du maŋi jadu.
 俺は ぶだいの 刺身が 良い。
42. teruŋima=ja i:nuka:=nu midzi=kara tsukurariŋdo:.
 照島 (酒) は イーヌカー (河川名) の 水から 作られる。
43. dŋiro:=ja uttu=nu saburo:=tu o:taŋ.
 次郎は 弟の 三郎と 喧嘩した。
44. dŋiro:=ke niwa=nu kusatui ŋimirani.
 次郎に 庭の 草取り させよう。
45. unu ŋimbuŋ=ja kinnu=nu ŋimbuŋ jaŋiga ŋfu:numuŋ=ja uriru jaŋdo:.
 その 新聞は 昨日の 新聞だが 今日のものは これだよ。
46. ho:nensai=nu tuŋfi=ne: haŋŋi=madi=n mo:taŋ.
豊年祭の 時に ばあさんまでも 踊った。

2.3.2 動作や状態の持ち主

nu 格の名詞が主語としてはたらき〈動作や状態の持ち主〉をあらわす。現段階では主語になれる名詞は、現象名詞の例だけが確認できた。

47. ami=nu φuinu ba:=ja saburo:=ja ja:=ne maŋga=bike: juno:ŋ.
 雨が 降る 時は 三郎は 家で 漫画ばかり 読んでいる。

2.4. ke 格

我喜屋方言の ke 格の名詞は、間接対象の補語と状況語としてはたらき、〈ゆくさき〉、〈あい手〉、〈くつつくところ〉、〈対象〉、〈原因〉をあらわす。

2.4.1 ゆくさき

ke 格の場所名詞が間接対象の補語としてはたらき、移動動作の〈ゆくさき〉をあらわす。

48. amma:=ja ifiba=ke koi=ga idʒaŋ.
 母さんは 市場へ 買物に 行った。
 49. dʒiro:=ja ami=ke nrije: ja:=ke ke:ʃaŋ.
 次郎は 雨に 濡れて 家へ 帰ってきた。

2.4.2 あい手

ke 格の人名詞が間接対象の補語としてはたらき、動作の〈あい手〉をあらわす。

50. taro:=ja uttu=ke kwa:ʃi wakije: turuʃaŋ.
 太郎は 弟に お菓子を 分けて あげた。
 51. hanako=ja amma:=ke me: kamaharitaŋ.
 花子は 母さんに ごはんを 食べさせてもらった。
 52. dʒiro:=ja gaŋbarihe: tamme:=ke mugeraritaŋ.
 次郎は いたずらして じいさんに 叱られた。
 53. dʒiro:=ke niwa=nu kusatui ʃimirani.
 次郎に 庭の 草とりを させよう。

2.4.3 くつつくところ

ke 格の物名詞が間接対象の補語としてはたらき、くつつき動詞とくみあわさり、〈くつつくところ〉をあらわす。

54. matsuri=nu harigami ko:minkan=nu kabi=ke hajo:taŋ.
 祭の 貼り紙が 公民館の 壁に 貼ってあった。
 55. dʒiro:=ga ke:bije: φa:ja=ke ʃiʃiburu utsukitaŋ.
 次郎が ころんで 柱に 頭を ぶつけた。
 56. tamme:=ga ʃiʃiburu=ke: sa:dʒi maʃo:taŋ.
 おじいさんが 頭に タオルを 巻いていた。

2.4.4 対象

ke 格の物名詞が間接対象の補語としてはたらき、心理的な態度をあらわす動詞とくみあわさり、〈対象〉をあらわす。

〈態度の対象〉

57. jurumitʃi=ja atʃi:ne habu=ke ʃu:i haŋko: narando.
 夜道は 歩くなら ハブに 注意しなさいよ。
 58. bjo:in=ne: ware:=ga ʃu:ʃa=ke: ururuʃo:ŋ.
 病院で こどもが 注射に 驚いている。
 〈状態が現れるために必要な対象〉
 59. hanako=ja ʃira=ga amma:=ke mattaʃi ni:joŋ.
 花子は 顔が 母さんに よく 似ている。

2.4.6 原因

ke 格の現象名詞が状況語としてはたらき、動作や状態の〈原因〉をあらわす。

60. dʒiro:=ja ami=ke nrije: ja:=ke ke:ʃaŋ.
次郎は 雨に 濡れて 家へ 帰ってきた。

・ 述語の要素

ke 格の名詞が naŋ (なる) とくみあわさって、述語としてはたらくとき、連語述語の要素となる例も確認できた。

61. uttu:=ja ɸudʒu ʃu:gaku=nu ʃiŋʃiŋ=ke nataŋ.
妹は 去年 中学の 先生に なった。
62. tabaku=nu ɕi:=kara kadʒi=ke: najo:nro:.
煙草の 火から 火事に なっている。

2.5. ni 格

我喜屋方言の ni 格の名詞は、状況語や間接対象の補語としてはたらき、〈動作や状態がなりたつ時〉、〈動作や状態がなりたつ場所〉、〈ありか〉をあらわす。

2.5.1 動作や状態がなりたつ時

ni 格の時間名詞が状況語としてはたらき、〈動作や状態がなりたつ時〉をあらわす。

63. haʃiqwaʃi:=ni ke:ʃuntedo:ja.
八月に 帰ってくるようだ。
64. iʃiŋiʃi=ni mike:=ʃika harantedo:ja:.
(バスは) 一日に 三本しか 走らないよね。

2.5.2 動作や状態がなりたつ場所

ni 格の場所名詞が状況語としてはたらき、〈動作や状態がなりたつ場所〉をあらわす。

65. jodʒi=madi basutei=ni maʃo:kido:ja.
四時まで バス停で 待っておけよ。

2.5.3 ありか

ni 格の場所名詞が間接対象の補語としてはたらき、物の〈ありか〉をあらわす。現段階では、疑問詞の例しか確認できていない。また、この用例は現代日本語の影響があるとも考えることができる。

66. wan kutsu ma:=ni ajo.
おれの 靴 どこに ある。

2.6. ne: 格

我喜屋方言の ne: 格の名詞は、間接対象の補語や状況語や連用修飾語としてはたらき、〈ありか〉、〈道具〉、〈手段〉、〈材料〉、〈量〉、〈動作や状態がなりたつ場所〉、〈原因〉、〈動作や状態がなりたつ時〉をあらわす。

〈材料〉、〈量〉、〈動作や状態がなりたつ場所〉、〈原因〉の意味は、後述する he: 格でもあらわすことができるが、ne: 格は 60 代の話者がこれらの意味をあらわすときに使用する傾向がある。

2.6.1 ありか

ne: 格の場所名詞が間接対象の補語としてはたらき、人や物の〈ありか〉をあらわす。

67. anu jama=ne: inoʃiʃi=ga unro:ja.
あの 山に いのししが いるそうだ。

68. waŋ=ga kutsu=ja da:=ne ajo.
おれの 靴は どこに ある。
69. tara:=ja φudzu:=kara jamatu:=ne=ru unro:ja:.
太郎は 去年から 東京に いるそうだ。

2.6.2 道具

ne:格の物名詞が間接対象の補語としてはたらき、動作にもちいる〈道具〉をあらわす。

70. dži:ro:=ga monosafi=ne saburo: kurufʌŋ.
次郎が ものさしで 三郎を 殴った。

2.6.3 手段

ne:格の物名詞が間接対象の補語としてはたらき、移動のための〈手段〉をあらわす。

71. maʃi=ke=ja takufi:=ne indʒuʃi=ŋkan basu=ne indʒuʃiga maʃi arani.
町には タクシーで 行くより バスで 行くのが 良いんじゃないか。

2.6.4 材料

ne:格の物名詞が間接対象の補語としてはたらき、生産活動の〈材料〉をあらわす。

72. dži:ro:=ja kabi=ne koinobori tsukutaŋ.
次郎は 紙で こいのぼりを 作った。
73. su:=ga ki:=ne: tsukue tsukuje: turafʌŋ.
お父さんが 木で 机を 作って くれた。
74. ?tamme:=ga wara=ne: dʒo:ri ano:ŋ.
おじいさんが 藁で 草履を 編んでいる。

2.6.5 量

ne:格の名詞が連用修飾語としてはたらき、〈量〉をあらわす。

75. to:kafʃi=ja ja:guna mu:ru=ne ju:bei φundo:ja:.
米寿は 家族 みんなで お祝いを するんだよね。

2.6.6 動作や状態がなりたつ場所

ne:格の場所名詞が状況語としてはたらき、〈動作や状態がなりたつ場所〉をあらわす。

76. ami=nu φui=nu çi:=ja saburo:=ja ja:=ne maŋga=bike: juno:ŋ.
雨が 降る 日には 三郎は 家で 漫画ばかり 読んでいる。
77. harita:=nu çi:=ja saburo:=ja u:mi=ne ju: kwa:hoŋ.
晴れた 日には 三郎は 海で 釣りをするよ。
78. haŋʃi:=ja nibandʒa:=ne terebi nooŋ.
ばあさんは 二番座で テレビを 見ている。
79. miʃi=ne ʃo:gakko:=nu ko:ʃoʃinʃiŋ=ke iʃataŋ.
道で 小学校の 校長先生に 会った。

2.6.7 原因

ne:格の現象名詞が状況語としてはたらき、動作や状態の〈原因〉をあらわす。

80. ma:ga=ga hanafʃi=ne: nu:jo:ŋ.
孫が 風邪で 寝ている。
81. me:=nu fu: mijagi=nu tamme:=ja bjo:ki=ne: ma:ʃando:.
先週 宮城の おじいさんは 病気で 死んだよ。

2.6.8 動作や状態がなりたつ時

ne:格の時間名詞が状況語としてはたらき、〈動作や状態がなりたつ時〉をあらわす。

82. ho:nensai=nu tufi=ne: haŋfi=madi=n mo:taŋ.
 豊年祭の 時に ばあさんまでも 踊った。

2.7. he:格

我喜屋方言の he:格の名詞は、間接対象の補語や状況語や連用修飾語としてはたらき、〈材料〉、〈量〉、〈動作や状態がなりたつ場所〉、〈原因〉をあらわす。he:格は動詞 huŋ (する) の中止形から格助辞に移行した形式であると考えられ、現代日本語ので格のようなはたらきをする。

he:格のこれらの意味は前述した ne:格でもあらわすことができるが、80 代の話者は he:格を使用する傾向がある。

2.7.1 材料

he:格の物名詞が間接対象の補語としてはたらき、生産活動の〈材料〉をあらわす。

83. dʒiro:=ja kabi=he koinobori tsukutaŋ.
 次郎は 紙で こいのぼりを 作った。
84. ?tamme:=ga wara=he: dʒo:ri anaŋ.
 おじいさんが 藁で 草履を 編んだ。

2.7.2 量

he:格の名詞が連用修飾語としてはたらき、〈量〉をあらわす。

85. unu te:buru=ja mbuhanu ju:tte=he: muŋfe ikaja:.
 この テーブルは 重いから 四人で 持って 行こう。
86. ni:=ga mbuhan tei=he: muŋfe: ikaja.
 荷物が 重いから 二人で 持って 行こう。
87. to:kafʒi=ja ja:guna mu:ru=he ju:bei ɸundo:ja:.
 米寿は 家族 みんな お祝いを するんだよね。

2.7.3 動作や状態がなりたつ場所

he:格の場所名詞が状況語としてはたらき、〈動作や状態がなりたつ場所〉をあらわす。

88. unu uwagi=ja jamatu:=he: nisenen=he: ko:tando:ja.
 この 上着は 東京で 二千円で 買ったよね。

2.7.4 原因

he:格の現象名詞が状況語としてはたらき、動作や状態の〈原因〉をあらわす。

89. me:=nu ju: mijagi=nu tamme:=ja bjo:ki=he: ma:ɸando:.
 先週 宮城の おじいさんは 病気で 死んだよ。

2.8. kara 格

我喜屋方言の kara 格の名詞は、間接対象の補語や状況語としてはたらき、〈とりはずすところ〉、〈あい手〉、〈材料〉、〈出発点〉、〈うつりうごく場所〉、〈動作や状態がはじまる時〉、〈原因〉をあらわす。

2.8.1 とりはずすところ

kara 格の場所名詞が間接対象の補語としてはたらき、〈とりはずすところ〉をあらわす。

90. ni:ke:=kara ɸuton mutŋe: ɸu:ja:.
二階から 布団を 持って こい。

2.8.2 あい手

kara 格の人名詞が間接対象の補語としてはたらき、動作の〈あい手〉をあらわす。

91. amma:=kara sa:dʒi ji:je: du: su:taŋ.
 母さんから タオルを もらって 体を 拭いた。
92. ne:ne:=kara dʒiŋ i:taŋ.
 姉から 金を もらった。
93. dʒiro:=ja tamme:=kara jagamahante mugeraretaŋ.
 次郎は じいさんから うるさいと 怒られた。

2.8.3 材料

kara 格の物名詞が間接対象の補語としてはたらき、生産活動の〈材料〉をあらわす。

94. saki=ja ɸumi=kara tsukuŋdo:.
 酒は 米から 作るよ。
95. to:ɸu=ja to:ɸuma:mi=kara tsukuŋdo:.
 豆腐は 大豆から 作るよ。

2.8.4 出発点

kara 格の場所名詞が状況語としてはたらき、〈出発点〉をあらわす。

96. taro:=ja iŋi jamatu=kara ke:tsuntega.
 太郎は いつ 東京から 帰ってくるか。
97. nago=kara naɸa=ke:=nu basuunŋin=ja iŋfaha jagaja:.
名護から 那覇への バス運賃は いくら だろう。
98. ko:ŋo:ŋinŋin=ga basu=kara urie ŋaŋ.
 校長先生が バスから 降りて きた。

2.8.5 うつりうごく場所

kara 格の場所名詞が状況語としてはたらき、移動動作の〈うつりうごく場所〉をあらわす。

99. tin=kara maŋŋira: tui=ga tuno:ndo:.
空を 真っ白な 鳥が 飛んでいるよ。
100. unu ware:=ja mata haru=nu naka=kara atŋo:saja:.
 この 子供は また 畑の 中を 歩いているね。

2.8.6 動作や状態がはじまる時

kara 格の時間名詞が状況語としてはたらき、〈動作や状態がはじまる時〉をあらわす。

101. hanako=ja kinnu:=kara jaŋme: kakaje: nu:jo:ŋ.
 花子は 昨日から 病気に かかり 寝ている。
102. tara:=ja ɸudʒu:=kara to:kjo:=ne=ru unro:ja:.
 太郎は 去年から 東京に いるよね。
103. taŋme:=ja ŋikama:=kara jama=ke kinoko: tui=ga ŋdʒaŋ.
 じいさんは 朝から 山へ きのこを 取りに 行った。

2.8.7 原因

kara 格の現象名詞が状況語としてはたらき、動作や状態の〈原因〉をあらわす。

104. tabaku=nu ci:=kara kaɸʒi=ke: najo:nro:.
 煙草の 火から 火事に なっているよ。
105. tabaku:=kara kaɸʒi=ke: najo:nro:.
煙草から 火事に なっているよ。

2.9. madi 格

我喜屋方言の madi 格の場所名詞や時間名詞は、間接対象の補語と状況語としてはたらき、〈到達点〉と〈動作や状態がおわる時〉をあらわす。

2.9.1 到達点

madi 格の場所名詞は間接対象の補語としてはたらき、移動動作の〈到達点〉をあらわす。

106. dʒiro: unu ni: basutei=madi muʃe ndʒe: turaçi:.
次郎 この 荷を バス停まで 持って 行って くれ。

2.9.2 動作や状態がおわる時

madi 格の時間名詞は状況語としてはたらき、〈動作や状態がおわる時〉をあらわす。

107. dʒikaŋ=ga aitu godʒi=madi terebi na:ni.
時間が あるから 五時まで テレビを 見ないか。
108. kudʒi=madi taro:=tu ko:miŋkan=ne utando:.
九時まで 太郎と 公民館に いたよ。

2.10. tu 格

我喜屋方言の tu 格の名詞は、修飾語と間接対象の補語としてはたらき、〈仲間〉〈状態があらわれるために必要な対象〉をあらわす。

2.10.1 仲間

tu 格の人名詞は相互的な動作をあらわす動詞とくみあわさると、文の部分として間接対象の補語としてはたらき、〈仲間〉をあらわす。

(相互的な動作のあい手)

109. dʒiro:=ja uttu=nu saburo:=tu o:taŋ.
次郎は 弟の 三郎と 喧嘩した。

また、tu 格の人名詞は、相互的な動作ではない動詞とくみあわさると、文の部分として修飾語としてはたらき、〈一緒におこなう仲間〉をあらわす。

(一緒におこなう仲間)

110. kudʒi=madi taro:=tu ko:miŋkan=ne utando:.
九時まで 太郎と 公民館に いたよ。
111. dufiŋʃa:=tu jamatu:=he: do:butsuen=ke: ndʒatu ironna do:butsu=ga u:tando:ja.
友達と 本土で 動物園へ 行ったら いろんな 動物が いたよね。

2.10.2 状態があらわれるために必要な対象

tu 格の人名詞は間接対象の補語としてはたらき、述語のあらわす〈状態があらわれるために必要な対象〉をあらわす。

112. taro:=ja mi: su:=tu ju: ni:joŋ.
太郎は 目が お父さんと よく 似ている。

また、tu の形式は以下のように同じ要素をもつ他の名詞と並べる〈並べ〉の例も確認できた。

113. kadzuko=tu hanako=tu duʃigwa:jasu.
かず子と 花子と 友達だ。

2.11. jakane 格

我喜屋方言の jakane 格の名詞は、間接対象の補語としてはたらき、〈比較〉をあらわす。

2. 11. 1 比較

jakane 格の名詞は、主語でしめされるものと〈比較〉されるものをあらかわす。

114. kinnu:=jakane ʃu:=ja hadʒi tsu:sanja.
昨日より 今日 風 強かったね。
115. jasaiandagi:=jakane saʃimi=ga=ru ma:hassa:.
野菜天ぷらより 刺身が 旨いよ。

動詞を名詞化させ「行くより」をあらわすときは、jakane ではない形式があらわれた。

116. maʃi=ke=ja takuʃi:=ne indʒuʃi=nkan basu=ne indʒuʃiga maʃi arani.
町には タクシーで 行くより バスで 行くのが 良いんじゃないか。

3. おわりに

本報告では伊平屋島我喜屋方言の名詞の格形式と意味について、分析・記述をおこなった。各々の格形式の意味ごとに用例数に偏りがあるため明確なことは述べられないが、いくつかの形式と意味についてすこし述べる。

〈動作や状態の持ち主〉は、主語としてはたらくハダカ格、ga 格、nu 格の名詞があらわす。ハダカ格は人名詞や現象名詞が確認でき、ga 格は人名詞や現象名詞や物名詞などが確認でき、nu 格は現象名詞の用例しか確認できない。このことから、〈動作や状態の持ち主〉をあらわすときは、ga 格が主となる用法であり、ハダカ格や nu 格は少し限られる用法だと考えることができる。

〈属性〉は、連体修飾語としてはたらくハダカ格、ga 格、nu 格の名詞があらわす。nu 格は様々な名詞が確認できるが、ハダカ格と ga 格は人名詞や人代名詞の用例しか確認できない。このことから、〈属性〉をあらわすときは、nu 格が主となる用法であり、ハダカ格と ga 格が人名詞や人代名詞に限られる用法であると考えられることができる。

〈量〉、〈原因〉、〈材料〉、〈動作や状態がなりたつ場所〉は、間接対象の補語や状況語としてはたらく he:格、ne:格の名詞であらわす例が確認できる。話者の年齢が 80 代なら he:格、60 代なら ne:格を使用するようである。このふたつの格は、he:格は動詞 huŋ (する) の中止形から格助辞に移行した形式であり、ne:格は古い日本語のに格からきた形式であると考えられ、発生が異なるものだろう。he:格と ne:格は同じ意味をあらわすが、〈ありか〉や〈動作や状態がなりたつ時〉は ne:格でしか確認できていないため、詳しい調査が必要である。

参考文献

- かりまたしげひさ 2016 『『あたらしい にっぽんご』テキストとその解説—第 6 章くつつき (1)、7 章くつつき (2) —』『教育国語 4・14』むぎ書房 pp. 99-130
- 言語学研究会 1983 『日本語文法・連語論 (資料編)』むぎ書房
- 鈴木重幸 1972 『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 當山奈那 2015 「琉球語平安座方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』 pp. 47-59
- 名護市史編さん委員会 2006 『名護市史本編・10 言語』名護市役所
- 琉球方言研究クラブ 2016 『うるま市与那城屋慶名の名詞の格ととりたて』
- 諸見清吉編・伊平屋村史発行委員会 1981 『伊平屋村史』伊平屋村
- 伊平屋村 HP <http://www.vill.iheya.okinawa.jp> (最終閲覧日 2017/2/9 21:15)